

AXL から LDAP ユーザ統合への Unity Connection 変換

内容

[概要](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Unity ConnectionのAdministrative XML Layer(AXL)からLightweight Directory Access Protocol(LDAP)User Integratedへの変換、およびAXL統合ユーザからLDAP統合ユーザへの変換で発生する問題の処理方法について説明します。Unity Connectionでは、LDAPからユーザをインポートしたり、AXL経由でCallManagerからユーザをインポートしたりできます。Unity Connection上でユーザを個別に作成することもできます。

問題

Unity ConnectionユーザをAXL統合からLDAP統合に変換する必要があります。お客様はJabberを使用しており、Jabberをボイスメールに接続し、認証にLDAPを使用したいと考えています。

注：この記事に記載されている理由を除き、この変換を実行することもできます。

解決方法

注意：この記事では、ユーティリティ接続でのLDAP統合設定については説明しません。この手順を実行する前に、LDAP統合設定を行う必要があります。「関連情報」セクションの設定に関する参照を参照してください。

1. Unity Connectionの管理ページに移動し、[Tools]の近くにある[Bulk Administration Tool]をクリックします。
2. [Select Operation] > [Export]を選択します。
3. Select Object Type > Users with Mailboxの順に選択します。
4. [Submit] をクリックします。
5. ファイルの準備ができたら、[Download the Export File]オプションが表示されます。
[Download the Export File]をクリックし、Comma Separated Values(CSV)ファイルをダウンロードします。

6. CSVファイルを開き、[Ccmid]列を見つけます。AXLが統合されたユーザは、長い文字列値を持つことができます。この値は%null%に置き換える**必要があります**。
7. AXLからLDAPに**変換する**すべての適用可能なユーザーIDに%null%値を適用します。
8. [Bulk Administration Tool (BAT)]ページに移動し、Unity Connectionを開きます。
9. [Operation] > [Update]を選択します。
10. **Select Object Type > Users with Mailboxesの順に選択**します。
11. 保存したCSVファイルを参照して選択します。ファイルに誤りがある場合、エラーログにはそれらの誤りが示されます。エラー・ログの名前をFailed Objects File Nameに**変更**します。
12. [Submit] をクリックします。
13. タスクが正常に実行されたら、ユーザをLDAP統合に変更できます。
14. ユーザの基本ページに移動し、[Integrate with LDAP Directory]をクリックします。
15. [Save] をクリックします。Unity ConnectionのAXLで使用されるユーザIDは、LDAPからCommunications Managerで受信されるユーザIDと同じです。
16. [System Settings] > [LDAP] > [LDAP Configuration]を選択して、LDAP認証が正しく設定されていることを確認します。
17. Jabberにログインします。ボイスメールが接続されます。

関連情報

- [Cisco Unity Connection 8.xとLDAPディレクトリの統合](#)
- [Cisco Unity Connection 9.xとLDAPディレクトリの統合](#)
- [Cisco Unity Connection 10.xとLDAPディレクトリの統合](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)